

平成18年度第2回河川工作物WG（意見交換）の概要について

1 開催日時 平成18年9月21日（木） 8:30～10:50

2 開催場所 羅臼町商工会館

3 出席者等

委員（五十音順、敬称略）

岡部 健士 徳島大学工学部教授

小宮山 英重 野生鮭研究所

妹尾 優二 流域生態研究所

中村 太士 北海道大学大学院農学研究科教授（座長）

オブザーバー

帰山 雅秀 北海道大学大学院水産科学研究院教授

関係行政機関

斜里町

羅臼町

事務局

林野庁北海道森林管理局

環境省釧路自然環境事務所

北海道

4 議題

対象河川の現状についての主な意見、感想は以下のとおり。

アイドマリ川

- ・アイドマリ川は急流で、ダムの上の環境はあまりよくない。民間の取水堰は遡上させることは可能。
- ・河川は荒れる傾向にあり、安定した良好な環境ではないため、ダム改良の優先順位は低い。
- ・等高線が狭い滑落型の地すべり地帯であり、環境は良くないので改良の優先度は低い。個人の取水堰は、既得権と合意の問題はあるがここを上らせるのは可能。

オショロコ川

- ・ダムの60m上流に自然の滝が上にあるため、カラフトマスを上らせても距離は短い。
- ・ダム上流（50m）に自然の滝があるが、産卵床として良い環境なので50mでも60m

でも上らせる手立てが必要。

- ・滑落、崩壊地が上にあり地形的にはいやなところで、改良の優先度は低い。

ショウジ川

- ・工作物の上流には滝があるが、ダムとの間には産卵環境があり、上らせてはどうか。
- ・かなり上流までオショロコマが分布している。川は安定していて生産環境があるのでダムの上流に上らせたい。
- ・再生産は期待できるが、川の規模に比して堤高が高く上らせるのは難しい。どうすればいいのか。

チエンベツ川

- ・河床は安定しており重要な河川だが、どう対応できるのか。
- ・上流域に良い産卵環境があるが、治山ダムが支障となってカラフトマスは遡上できない。
- ・河床環境は良好であり資源量も多いので、最優先に改良して上らせたい川。
- ・改良すると水の濁りの問題はあるが、土砂の堆砂は少ないので下流に土砂が流れても改良は可能ではないのか。

知徒来川

- ・本流そのものはダムがなく良い環境だが、ダムは枝沢の山腹斜面に設置しており、全くサケの遡上には影響ない。
- ・ダムは小さな支流にあり、魚類は生息できない。

羅臼川

- ・羅臼川本流は魚道が整備され魚が上っておりいいことだが、水質は良くなく、河床生物の生産量は低いので魚にとっては厳しい環境の川。また、都市河川の印象があり、住民生活、生態系のバランスの関係から、他の河川と同じ価値観では評価できない。
- ・北海道で整備している魚道は、カラフト、シロザケが上っているが、産卵床が足りないのも更に上に上らせてはどうか。発電所川はアルカリ性で、水温も高く（23度）利用できない。栄町の沢では、U字工があるが、その上流にはオショロコマが生息しており、小さな支流ではあるが、移動させる仕組みも必要。
- ・滝の上や温泉水の上でもオショロコマが分布しているのが羅臼川の特徴。唯一サケマスの増殖をやっているが、同じ放流数でもサシルイ川の方が約1.5倍くらい多く再生産している。整備されている最上流の魚道の所まで、サケを捕りに熊が出没しているが、熊との関係からどこまで上らせれば良いか考えるべき。個人的には「熊越えの滝」まで上らせたい。
- ・羅臼川には、同程度の規模、インターバルで高密度にダムが入っている。50～100

年サイクルの大量土砂流出、数年に1回の河床氾濫の2形態への対応を視野に入れて再整理することが必要。高いダムをどうやって魚を通過させるのか、大暗渠で魚を通過させる方法もある。

- ・魚道、人家、熊の関係から考えると難しい川。砂防、治山がサンドイッチ状に配置されており変わった施設配置をしているが、全体の土砂計画はどうなっているのか。

20の砂防ダムは細かい砂利しか溜まっていないがこの高さが必要なのか、将来的には考える必要がある。知床大橋の上は、どうするのか。また、ダムの改良でなくバイパス河川を作る方法もある。